

東京商工会議所女性会

東商 Lady

第19号 2013.6

【巻頭対談】

上原明氏と吉川会長

大正製薬ホールディングス株式会社 会長兼社長



上原 明 × 吉川 稲

「紳商たれ」

祖父母から受けた“判断基準”

大正製薬の事実上の生みの親、上原小枝氏は夫・正吉氏とともに一体となって今日の基礎を築きあげられたことで有名です。今回は、今尚多くの女性経営者から尊敬される上原小枝氏・正吉氏の帝王学を学ぶべく、上原明大正製薬ホールディングス会長兼社長にご多用の中お時間を頂き、貴重なお話を伺いました。



吉川 大正製薬は、昨年の10月に創業100周年を迎えられ、ますますのご発展をなさっていますね。先代の上原正吉名誉会長ご夫妻が会社に勤めはじめた頃は、社員は7人だけだったとお聞きしております。そこからわずか3代にして、大正製薬が今日に至る繁栄をされている裏には、何か一筋の哲学が流れているように思われませんが、いかがですか？

上原会長（以後、上原） 私は、33歳の時に妻と結婚して上原家に入り、大正製薬の名誉会長であり祖父母でもある上原正吉・小枝と共にひとつ屋根の下で暮らしていました。側において感じたことは、とにかく一人はユニークな個性と、独特な経営哲学を持つて会社を導き、またそれに伴う業績を上げていたということです。二人が築き上げて、現在へと継承してきた考え方は、今でも根付き、会社の支えとなっていると思います。

吉川 上原会長ご自身も、お若い頃、祖母である上原小枝名誉会長から、そうした経営者としての帝王学を学ばれてきたと伺っております。

上原 そうですね。私が受けた教えの多くは、祖母の上原小枝から伝えられたものです。生活を共にすることで、私は色々な

ことを教えていただけるといふ、学びのチャンスに恵まれていたと思います。当時は、帰宅して夜の食事を終えた後、可能な限りいつも対話の時間を設けてくれました。その度に、「今日は会社で何があったの？」と

尋ねられます。そして、私が1日に起きた出来事を報告すると、『あなたは何を考えた上で、それを是としたのか非としたのか』と問われ、私が下した判断について正されました。

吉川 同居されることを、ご自身のチャンスと捉えられた上原会長の考え方はとても素晴らしいですね。上原小枝名誉会長と毎晩お話をされた中で、特に記憶に残っていることはありますか？

上原 特に印象的だったことは、私が仕事において前回と同じやり方をしたと言った時のことです。その時は、「前回通りとは何事か!？」と大変なお叱りを受けました。例え同じ案件が1日に2回あったとしても、



その都度、環境も条件も違うかもしれないのだから、間違ってもそのつど自分で判断することが大切なのだと言われました。判断するということ、上手くない状況に直面したときにはその原因を突き詰めることができ、そして原因がわかれば、そこで軌道修正をすることができるよう、自分で考える「判断」はとても重要なのだと言われたことを、今でもよく覚えています。

吉川 会社のトップというお立場として、上原会長が意思決定をされる場面が多々あるかと思いますが、そうした際にも上原小枝名誉会長から受けた「判断基準の大切さ」という教えは生きていたのでしょうか？



上原 やはり私の立場として、「長期的に見て、会社のために最も良いことは何か」を考えての意思決定が求められるため、判断の大切さ」というものを実感します。会社の戦略を決める場面では、短期的なメリットと、長期的なメリットが相反する場があります。その際には、短期的なメリットを追い求めることをがまんして、最終的に長期的利益を得られる戦略を取る方が、会社にとっての最善の策となります。この時に、目先の短期的なメリットに誘惑されることがなく、トップの判断基準がブレない

上原 明氏

昭和16年4月5日生まれ、米国留学後、昭和41年慶應義塾大学卒業。同年4月日本電気(株)入社。昭和52年4月大正製薬(株)入社、昭和57年6月代表取締役社長就任。平成23年10月大正製薬ホールディングス(株)代表取締役会長兼社長(現任)。世界大衆薬協会会長(平成11年6月~平成14年11月)、日本一般用医薬品連合会会長(平成23年7月~)。住友銀行元頭取・堀田庄三氏の二男で、兄は住友銀行元副頭取でモルガン・スタンレー証券元会長の堀田健介氏。

というところが重要だと思えます。吉川 頭では理解していても、ついつい目のメリットを優先してしまいがちになり

ますが、辛抱して堪えることが大切なのだとしみじみ感じました。そうした大きな決定を求められる場面では、高いリーダーシップが必要とされますが、上原会長の現在の決断力や判断力はどのようにして培われてきたのですか？

上原 実を言うと、若い頃の私には、自分の判断基準というものに自信が持てず悩んでいた時期があります。私は、学生時代には生徒会長などの役職を務めた経験もあり、他人の意見に耳を傾けることには長けていた方でしたが、異なる2つの提案がなされた場合に、どちらを選択するか迷う場合が多々ありました。しかし、大正製薬に入社して様々な状況に直面し、また祖母からは日々の判断を正される中で、自分自身の決断力や判断力というものを培うことができたのだと思います。今思えば、学生の頃に悩んだのは短期と長期のメリットが異なる場合でした。入社後に会社で学び得たことや祖母からの教えという全てが重なり合い、現在の長期メリット重視の判断基準を確立するに至ったと感じています。

絶えず「なぜか？なぜか？」を考える

吉川 これまでのお話を伺い、大正製薬の

トップが判断基準の大切さ」というものを重要視し、それは先代より継承されてきた哲学の1つなのだとということがわかりました。では、会社全体として、社員と共に共有されている考え方というのはありますか？

上原 会社全体のカルチャーとして、何事についても「考える」ということが大正製薬の根幹には流れています。

吉川 「考える」というカルチャーの原点とは、どこにあるのでしょうか？

上原 その原点は、祖父の上原正吉が『絶えず、なぜか？なぜか？を考える』という哲学を持ち、皆に問い続けてきたところにあります。一見すると、世の中は混沌としていて、ヒット商品がなぜヒット商品たるのかということとはわからないものです。しかし、よくよく考えると、売れるモノには売れる仕組みがあり、同様に売れる営業マンは売れるノウハウを持っています。例えば、薬局で商品売る際にも、「どこにどれだけの量を陳列しているのか？レジ横なのか、店先なのか？値段はいくらなのか？声は掛けているのか？」などのように、多種多様な仕組みを考えることができます。それらを突き詰め、とことん考えるということが、祖父の『なぜか？なぜ



か?』の教えです。

吉川 近年では、どのような業種の企業においても、モノが売れにくい傾向にあります。そのような状況の中では、上原正吉名誉会長が『絶えず、なぜか? なぜか? を考えろ』と言われたように、売れる仕組みや売れるノウハウを観察することが大切なのだと感じます。

上原 吉川会長がお話しされた通り、1990年代に入って以降、そう簡単にモノが売れない時代になってきました。しかしこのような不況下においても、売れる営業マンは確実な成績を上げており、また一方で、売れない営業マンは同じ商品を以ってしても結果を残すことができていません。つまり、全体の総和を見れば売上が上がっていない商品であっても、そのモノ自体が悪いと決めつけるのではなく、売り方にも問題があるかもしれないということなのです。そこを『なぜか? なぜか?』と追及しなければ、この時代を勝ち抜いて行くことは難しいのではないのでしょうか。

吉川 私たちが売上を見る時には、全体の平均値ばかりに目を向け、その商品の良し悪しを判断してしまいがちになります。しかし、売り方というところに着眼点を変えてみると、売れるチャンスはいくらでもあるのだと、今のお話を聞いてわかりました。そのためには、売れる人と売れない人の間にある差を縮める必要があるのではないかと思います。上原会長は、営業マンのスキルアップということについて、どのようなお考えですか?

上原 会社全体の営業マンを見た時に、目標を達成できている者と未達成の者の双方に分かれますが、会社の業績向上の鍵を握っているのは、その中でも中間層に位置する者たちだと思います。彼らがスキルアップし、より売れるようになるかどうかということが会社の命運を左右します。営業というのは、1000人いれば1000番まで順位がついてしまうほどに、商品を扱う人によって売り方が異なり、それに伴う成績が明確に表れるものです。1

番を取る人というのは、売れるやり方や道具を持ち、話し方に至るまでの全てにおいて独自のノウハウを築いています。スキルアップの第一歩は、成功者のやり方を真似ることから始まり、そこに自分の知恵や工夫を加えて、各々のノウハウを確立していくのだと私は考えています。

吉川 では、どのようにしてスキルアップの環境を整えていけば良いのでしょうか?

上原 スキルアップの環境を作るには、まず売れない人の悩んでいる原因を見つけてあげることだと思います。そしてその答えは、売れる人が握っているのです。大正製薬には、「だいなも」という広報誌があります。これは、実際に現場で活躍し、成果を上げている営業マンにそのノウハウなどを聞き、掲載したものです。このタイトルの「だいなも」には、自動車のダイナモエンジンのように営業を動かすエンジンとあってほしいという意味が込められていて、会社全体で営業マンの成功ノウハウを共有しようという伝統的な取り組みです。また、仲間が売れているのに、なぜ自分は売れないのかということ、悔しいと思う競争意識を持つことも大切ではないでしょうか。祖父がよく言っていた言葉に、『奉公人根性を持つな!』というものがあ

た。『言われた通りのことをしたが、売れなかった』というように、自分の責任を問わず、売れない原因を会社の責任にするような者は給料泥棒であるというのが祖父の考えでした。奉公人根性を捨て会社に依存せず、悔しさをバネに次回の成功へ向け自分で考えて行動することも、営業のスキルアップを加速させるエンジンの一つになるのだと思います。

吉川 各々が向上心を持ち、失敗を糧に次の成功へ向けて努力することが大切なのですね。ここでもやはり、上原正吉名誉会長の『なぜか? なぜか?』の教えが生きてくるように思います。

上原 その通りです。実際に、祖父が会社のトップを務めていた当時は、社員の営業についてとことん「なぜか?」と追及し、営業マンのスキルアップに尽力していました。大正製薬の営業マンは、日々の活動を日誌に記録することを習慣とされているのですが、祖父は、その日誌に朱を入れて『なぜそう思うのか?』と問い、報告する時には、実証的な数値と行動に基づいた説明をすることを要求していました。祖父が実証的な数値と行動を求めたのは、自分自身も、広告による宣伝効果を確かめるために宣伝の前後における店頭消化数の変化を

計測し、その効果を確かめていたという経験があったからです。そのため、数字で示すことが高い説得力を持つということをよく理解しており、原因や理由を追求する際には、これを大変重視していました。また、ある営業マンについては、「それはどうやってわかる？なぜそう思う？」と、祖父との間で幾度も往復のやり取りを行い、どこまでも『なぜか？なぜか？』を追いかけ、突き詰めたそうです。確かに、現在は景気も上向きとは言えず、他社との競争も激しい現状があるため、営業マンにとっては大変厳しい環境だと思えます。しかし、祖父が言い続けてきたように、絶えず『なぜか？なぜか？』を考えることで、必ず打開の糸口は見えてくるでしょう。

「紳商たれ」

吉川 上原正吉名誉会長が、社員と共に絶えず『なぜか？なぜか？』を考えてきたように、トップが率先して会社の現状と向き合わなければいけないと感じました。まだまだ考えが甘いのではないかと、ドキッとさせられます。

上原 自分の関心事が広がってくると、本業への集中というのは疎かになってしまい

がちです。しかし、上原正吉は他の仕事に従事している時でも会社の日誌を持ち込むほどに、本業を大変重視し、商売は命だと考えていました。その原点には、「商売とは戦い、勝つことのみが善である」という、強い覚悟がありました。商売は短期決戦ではなく、結果が明白になるまでには長い時間を要します。だがしかし、大河のごとく海に向かって流れ続けていて、日々確実に勝敗が積み重なり、最後には必ず決するといふものです。そして、勝てば栄華を極め、負ければ貧民窟街でのたれ死にするというほどに、商売とは厳しく、また覚悟を求められるものでもあります。ですが、ただ勝利することのみを求めれば良いというわけではなく、そこには商売人たる者、決して破ってはならないルールが存在します。大正製薬には、以前より、商売の心得として「紳士の商売人たれ」という教えが伝えられてきました。この言葉は、紳士とは人をごまかすこと、嘘をつくこと、弱者をいじめることを信念としてきびしく禁じ、社会に役立つことを基準に行動する人であれ

ということを説いたものです。つまりこれは、近年でも企業の問題としてよく取り上げられるコンプライアンスを遵守し、企業倫理に基づいた経営を忘れてはならないと

いうことを表しています。このルールの下に「商売とは戦い、勝つことのみが善である」の精神があり、真つ直ぐに戦った者だけが本物の勝利をつかむ権利を得るのです。**吉川** 同じく商売をする者としては、特に重く、心に響く言葉です。戦いの中では、どの業界においても競合する企業の存在がありますが、私たちはそれらに対して、どのように対峙していけば良いのでしょうか？

上原 会社の成長にとって、ライバルは必要な存在です。製薬業界に属する大正製薬は、主に医薬品を商品として取り扱うため、品質が良いということが第一条件に求められます。そして、そこに経済的条件とサービスの充実という更に二つの条件が満たされ、これらの三要素が揃った時、ライバルに勝つことができます。しかし、その中の一つでも条件を満たしたならば、市場において競合他社よりも優位な立場に立つことができるため、各々が企業努力に取り組みます。このような競争関係が成立する

ことで、お互いにより良いものを作って提供しようという研究改良の促進が図られ、それが社会の進歩と活性化を生むでしょう。祖父が言っていたように、商売という戦いの中で勝利を得るためには、競合する企業に対してライバル意識を持つて対峙し、共に切磋琢磨し合う関係を築くことは大変重要だと思えます。

吉川 現在の大正製薬の繁栄は、商品の素晴らしさはもちろんのことですが、戦いの中で切磋琢磨し合い、より優れたもの求めて努力されてきたからこそのものですね。厳しい時代の中にあっても、なお発展し続ける「商売の柱」とは何でしょうか？

上原 大正製薬の商売の心得としての、「紳商たれ(紳士の商売人たれ)」を実現するためには、『正直・勤勉・熱心』を実践することだと考えています。まずは「真正直」に仕事に取り組み、例えば会社にとって不利になるようなことがあったとしても、お客様に対して隠さず打ち明け、信頼を得ると



いうことが大切です。また、仕事に「勤勉」に取り組むうちに色々なアイデアや法則を見つけてくることもあります。お客様にとってプラスになることを見つければ、それをお客様にお知らせすべく「熱心」にもなるだろうということ。 「正直かつ勤勉で熱心である」が、商売の戦に勝つ要諦であり、会社を貫く柱となっています。

「着眼大局、着手小局」

吉川 近年、世の中のサービズが急速に拡大し始め、お客様のニーズを捉えることが困難になってきているように感じます。

上原 確かに、時代の流れと共に最近のマーケット市場は大きく変化をしていますね。以前は、供給者サイドが握っていた市場の決定権は、今では生活者サイドへと移行しています。市場にはモノが豊富に溢れ、生活者の選択肢が拡大しました。また、インターネットなどの普及によって、生活者はあらゆる場所からあらゆる情報を手に入られるため、ベストプライスでベストチョイスをすることも可能になりました。このような背景がある今日において、これまでと同様の方法を用いるだけでは、勝ち残っていくことは難しいでしょう。

吉川 やはり多くの経営者が、その問題に直面しているかと思えます。変わりゆく時代と市場の中で、私たちはどのように対応していけば良いのでしょうか？

上原 私が最も大切にしている言葉の一つに、「着眼大局、着手小局」というものがあります。私はこの言葉を、元陸軍参謀にして伊藤忠商事の会長も務められた瀬島龍三先生から教わりました。瀬島先生は、この意味を『戦局の全般を把握して大きな戦略を立て、戦略目標に向かって、まずは実現可能なことから着手していくこと』だと言われましたが、これは、ビジネスにも置き換えて考えることができると思います。会社のトップは、今の時代の流れや市場の動きを捉え、その上で企業が何をすべきかを考えて進むべき方向や行動目標を定め、そして身近なことから実行していくべきだと、私は考えています。

吉川 上原会長にとって、「着眼大局、着手小局」の考え方は、現在どのようになっていますか？

上原 私たちの医薬品産業について言えば、日本の年々加速する長寿社会において、医療の効率化と高度医療技術に対する重点的な投資が急がれるという状況があります。また、財政難により、政府予算の3割を占

めている高額な社会保障費の削減も検討され始めており、現状ではこれを避けて通ることはできないでしょう。以上のような国の医療費が増す時代の流れを受けて、私は、生活者が自費負担で一般用医薬品を使用し、自分の健康は自分の責任で守るという「セルフメデイケーション」を確立することが、社会への貢献になると考えています。そのために、まずは品質が良くて使いやすいモノを手に入りやすい価格で提供できるようにするなど、足元の部分からの着手を始めています。

吉川 時代の流れを的確に読み、社会のニーズとご自身のお仕事を結びつけておられる視点の鋭さには、さすがの三言です。

上原 ありがとうございます。先にも述べたように、市場の決定権を握っているのが生活者側である以上、最も大切なのは生活者密着型の視点を持つということです。例えば、便秘の薬一つをとってみても、女性、子供、お年寄りというように、使用する層によって体調も違えば求めるものも違うでしょう。この時代を勝ち残っていくためには、視野を広げて生活者が何を欲して何に悩んでいるのかというニーズを観察し、供給者サイドの発想から視点を変えてみる必要があると思います。

目標を達成し、成功を収めるための3要素

吉川 ついつい自分の角度から見える範囲の狭い視野で物事を捉えがちになりますが、それを広げてよく観察すると、色々ところにビジネスのチャンスは眠っているのかもしれないですね。

上原 世の偉大な経営者たちも、先見の明を以ってビジネスチャンスに気付き、大きな成功を収めてきたのでしょう。

吉川 上原会長も、既にその中のお一人となられているでしょう。ご自身では、「成功」ということについて、どのようなお考えをお持ちですか？

上原 私はまだまだです。 「成功」についてお話しをするなら、私の留学時代の友人が起業したサクセス・モチベーション・インステイテュート^{SMI}プログラムというものの中の印象的な内容をお伝えしましょう。ポール・J・マイヤー氏は米国のビジネス界、政界、スポーツ界、芸能界等で成功したともくされる人の共通点を研究しました。

吉川 その成功を収める要素とは、どのようなことだったのでしょうか？

上原 第一には、「ゴール・マインド」

目標指向”であるということです。ここで重要なのは、いきなり大きな目標を設定するだけでなく、それに到達するためのいくつかの中間目標を刻んで設定し、一つ達成したら次の段階へと、努力して一段ずつのぼっていくことです。先の「着眼大局、着手小局」の教えにもあったように、大きな視点で物事を捉え、まずは可能なことから実行していくことで、最終的には目標を達成することができるのです。第二には、‘‘ファーマティブ」前向き発想”を持つことです。自分ができないことを周りのせいにするようでは、人間として成長することはできません。不振の原因は外ではなく内にあり、同じ状況の中でも伸びている会社や商品はあります。自分以外は皆先生です。祖父が『絶えず、なぜか？なぜか？を考

えろ』と説いたように、前向きに学ぶ姿勢を持つことが、自分自身を伸ばします。自分以外は皆、先生です。第二には、‘‘アップ」積極的”な行動を取ることです。これらの3要素を身に付けることが、人生の成功を引き寄せた人の共通した考え方だったということです。

現場を知らずして、社長は務まらない

吉川 今の成功者の3要素についてのお話を聞いてみると、上原名誉会長ご夫妻が築いてこられた哲学と共通しているところがあると感じました。お二人のそうした考え方というのは、どのようにして培われてきたものなのでしょうか？

上原 一番は、「とにかく現場を知っている」ということだと思います。上原正吉と小枝が会社に入って間もない頃は、社員がたったの7人という状況からのスタートだったため、とにかく二人は現場の仕事をよく理解していました。その状況から、私が35歳で入社した当時で年間576億ほどの業績を上げるまでへと成長していたので、会社をここまで大きくしたという自負もあったのでしよう。

吉川 会社のトップが現場を理解していなければ、部下への的確な指示を出すことは難しく、会社経営において必要不可欠な要素の1つであると私も思っております。上原会長も、大正製薬に入社された頃には現場を経験されたのですか？

上原 入社当時には、私も現場の仕事を体験しました。その時には、上原小枝から「自分で現場を知り、知った上で次の人へと仕事を渡しなさい」と言われました。理解した上で引き継がなければ、選択を求め

られた場合に『是非か』という判断を下すことができなからとのでした。

吉川 上原小枝名誉会長ご自身

が現場をよく知っておられたからこそ、よくお言葉に重みがあるように感じられますね。

上原 私を社長に指名した時には、「覚悟はできているのか？社長とは、1日24時間365日の勤務ということだよ。その覚悟ができていないのなら引き受けるな」と厳しい言葉を掛けられました。社長というのは、それほどにきつく、責任感と実行力を必要とされる立場であると実感させられましたね。『自分自身が汗をかかずして、社長などとはとんでもない』と、現場を知り尽くした者であるからこそ、築くことができた考え方なのだと思います。

女性のニーズが溢れる時代
―更なる活躍に期待

吉川 先代の上原正吉名誉会長ご夫妻から受け継がれてきた哲学や、上原会長ご自身が多くの経験をされる中で大切にされて



きた考え方など、どれも宝物のようなお話ばかりでした。最後になりますが、現在活躍する女性起業家たちへの応援メッセージをお願い致します。

上原 今の時代は、女性の皆様にとって、絶好のチャンスの時だと思います。社会においても家庭においても、女性はキーパーソンであり、女性のニーズにマッチしなければ、ビジネスの勝ち組になることは難しいと言っても過言ではないでしょう。近年、生活者の視点が大きく変化し始め、ただ良いものを提供するだけの商品は売れなくなりしました。生活者が求めて手に取るものは、使いやすさや安心、おいしさなどのプラスアルファを持った商品なのだと思います。そして、そのプラスアルファの付加価値を的確に捉えられるのは、女性ならではの視点なのではないでしょうか。女性のニーズが溢れるこの時代に、皆様のご活躍を期待しています。

新年懇親会

ザ・プリンス パークタワー東京「コンベンションホール」にて
平成25年東京商工会議所女性会新年懇親会が開催されました。
ご来賓の方々とともに厳選されたお料理を頂きながら、
心温まる和気藟々と新春を祝う宴となりました。



石原慎太郎 前東京都知事



菅原一秀 経済産業副大臣

新年懇親会の開宴に先立ち17時30分からウェルカムアトラクション ピアノデュオ「鍵盤男子」の演奏が行われ、その素晴らしい演奏テクニックと奏でられる曲の数々に210人の参加者一同心を奪われました。

演奏の余韻が残る中、司会の楨徳子会員の紹介によって吉川稻会長の挨拶で懇親会がスタートしました。

「本日は皆様の心がけがよろしく晴天に恵まれ、またご多用の中、こうしてお出かけいただけましたことに、心から感謝を申し上げます。そして日本にオリンピック招致をと立候補なされました、前東京都知事石原慎太郎様はじめ、後ほど経済産業省から菅原一秀副大臣も駆けつけて下さる予定でございます。万難を排しておでかけくださいましたことに、心から感謝を申し上げます。

日本へのオリンピック誘致において女性の支持率が低いといわれておりますので、私たち女性会も女性の支持率アップに協力をさせていただきたいと様々な行動を起こして参りました。私も各地に出かけました折には必ずオリ

ピック招致の話をして参りました。初めは盛り上がりなかつたものの最近ではどこでも招致に対する声が大きくなり、嬉しく思っております。次の世代を担う子ども達に夢と希望を、そして東日本大震災でお世話になりました世界の国々の方々に御礼を申し上げ、復興した日本の姿を見ていただきたいという意味からも、また経済の復活のため、雇用の拡大のためにも、益々盛り上げるお手伝いをさせていただけたらと思っております。

後ほどオリンピック・ノルディックスキー複合 萩原次晴様、また競泳平泳ぎの岩崎恭子様も招致の為に駆けつけて下さりご挨拶を戴く予定です。

ところで昨日の日経新聞に「若い女性、壁を越え起業」という記事が掲載されておりました。それによりますと、34歳までに起業した女性は44%と、男性の28%の二倍近くになっているという記事でございました。

当然経営ノウハウなど習得する機会はほとんどなく、先輩経営者から教えを請いながら、そしてまた自らの工夫でカバーしたとの経験談も書かれてありました。女性の起業は自らの体験の中から見つけたもの、不便を感じたものに工夫を重ね商品と

して現していられる方が多いと、全商女性連の「起業家大賞の審査員」をさせていただき、感じております。

また、その新聞には創業した企業が大きく伸びるポイントとして、起業家自身が変わる必要があるとの声もありました。

変わるために必要なことは、私はまずは自我を外す個(個人という角度)から公(おおよけ)という考え方を学ぶこと、そのためには秩序・礼儀を心得、そのときそのときの自分自身の立つ位置を知ること、そうして「自分に見極める目を持つこと」が大切だと思っております。商工会議所の女性会はまだまだこの域に達していないのが現実ですが、国は女性の力を引き出そうと起業家支援に動き出しております。私は女性起業家が活躍できることが、結果的に国内の雇用、産業、ひいては地域を活性化させ、本格的に立て直していく原動力となっていけると感じております。

昨年の全国大会でお話しさせていただきました影響がありました、マザーテレサさんのお言葉をここでお話しさせて戴きたいと思っております。

思考に気をつけなさい...思考は言葉になるから
言葉に気をつけなさい...言葉は行動になるから
行動に気をつけなさい...行動は習慣になるから



吉川 稲 東商女性会会長



荻原次晴氏(右) 岩崎恭子氏(左)

習慣に気をつけなさい…習慣は性格になるから
性格に気をつけなさい…性格は運命になるから

とお言葉です。

運命は自分自身で作るのです。その原
点は「意思」なのです。

初発の意思と申しますか、その初発の
意思の中心に常に「愛」の思いをもち、そ
してその「愛」をどこまで深めることが出
来ますか、それが自分の運命を有意義に
創れるのだと思います。

明治天皇様でしたか、今上天皇様のお
詩でしたか

ちはやぶる 神のひらきし 道をまた

ひらくは人の 力なりけり

という詩がございました。今大きな時代の
変わり目でございます。

私たちは新しい時代に向かって、このお
詩のように神のひらきし道を、信念と勇
気を持って歩んで行くという決意で進んで

参りましょう。自立した女性
会を目指してまさにこの時代
を開いていくために皆様と共
に心を合わせて学んでいき
たいと思います。」

続いて、前東京都知事・衆
議院議員の石原慎太郎様より、

「暴走老人の石原慎太郎様ご
ざいます。ガラの悪いメガネをかけており
ますが、今年のお正月に両眼の白内障手
術をしましたら視力が0.45から両目1.
5に戻り、世の中は暗いのに眩しいほど明
るくなったのでメガネをかけております。

皆さん今の世相を眺めて心を悩ませて
いると思いますが、そう日本は捨てたもの
ではないのです。皆さんに認識していただ
きたいのは、この日本はまだいろいろな力
を持っているということです。

例えば国の借金は938兆円で国家
予算百兆円の十倍近い借金があります
が、国民個々の預金、保険、株を合わせると
1515兆円の金融資産があります。あ
る新聞社の社主から聞いた話ですが、古
い一万円札、昔は聖徳太子といったがこの
一万円札で筆筒預金している人の預金総額
は2千億円あります。これは一つの象徴です。
もう一つの力は二十一世紀に入ってから

日本人が自然科学の分野で取ったノーベル
賞の数が、ヨーロッパ全体と同じである事
です。ノーベル賞というのは結構いい加減
で政治的だが、自然科学の部門は信憑性が
高い。人間の価値というか力は物事の発想
力です。この発想力という点で日本人が優
れているということ、自然科学という信
憑性の高いノーベル賞の数で示していると
いうことはとても大事なことだと思います。
が、一方で日本人の思考が最近乱れてき
たというか、センチメン
トになりました。例えば
原発を本気で2030年
代に廃止するのですか？
1980年代にエネ
ルギー危機で電気料金が
上がったことがあります。
その時日本の大事で得意
な産業であったアルミ業
界が瞬間的に全滅しまし
た。一社だけ、日本軽金
属の蒲原工場だけが富士
川の水力発電をやっていた
ため助かった。

役人がこれから何年か
先、電気料金がどれだけ
上がったらどの企業がど

れだけ損をするかを試算しました。例え
ば10%の想定、15%の想定とあるが20%
上がると日本のほとんどの企業の利益が無
くなります。そういった数字が出てい
るに国会の政治家たちは皆さんのセンチにお
もねって原発論を論じている。資料もある
のに参考にもせず、シミュレーションもし
ていない。皆さん、これから肝に銘じて物
事を冷静に、データを踏まえながら複
合的に想定してかからないと、センチメン



「鍵盤男子」のお二人



会場風景



司会・楨徳子会員



オリンピック招致コーナー

トにかられてエネルギーの問題を扱い損なうと、この国は力がありながら減じます。

アメリカはにやにや笑って見えています。アメリカのある論文を読みましたら、「日本が原発を全廃した瞬間あの国の経済は全滅するだろう」とありました。私もそう思います。何も原発が良いと言っているのではない。ただ物事の度合いというものを考えないと、代案がないのに物事を白か黒かで考えたら大変なことになる。

皆さんも大なり小なり企業を預かっている方々ですからこの問題を冷静に捉えて税金の問題もそうですが、消費税を払わずに済むのですか？ 私は自民党にうんざりして辞めた人間だから自民党の肩を持つつもりは毛頭ないが、今の様な高福祉低負担が続く国があるわけがない。皆さんは経営をやっていらっしやる方だからわかるでしょう。

こういった問題もセンチメントで考えず、もっと冷静に合理的に複合的に物事を考えていこうではありませんか。そうでないと下手をすればこの国は沈みますね。

男はこの頃本当に浮ついていてポピュリズムに走るけど、せめて女性だけはしっかりしてもらいたいとお願いに参りました。決しておもねるわけではないが、目がよく

見えるようになったので自分の皺の数もわかるようになりましたが、それでも物事の皺の数も念頭に入れて考えないと、皆さん人生過つ、国を過つということになるので、せめて女性の方だけでも頑張ってください。今年も皆さんに力を借りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

会場からはところどころ笑い声も上がりながら、参加者一同熱心に耳を傾けておりました。石原慎太郎様は、来賓としてご出席予定であった猪瀬東京都知事が前日に公務の為キャンセルという事務局からの連絡を受け、急遽出席のお願いをいたしました。オリンピック招致を女性会も応援していることから、ご多忙の中万難を排してご出席戴きましたことは感謝に堪えません。続いて、菅原一秀経済産業副大臣からのご挨拶を頂きました。

「久しぶりに石原節炸裂でございます、楽しく拝聴致しました。やはり女性の皆さんが頑張っているからこそ東京も日本も元気なんだというお話でしたが、前知事は未だに週3日プールで1キロ泳いでいるそうで益々ご壮健で素晴らしいなと思っております。

安倍政権が発足してちょうど1か月が

経ちました。株価が昨日あたりは前場で1万1千円をつけ、今日あたりは少し落ち着いて1万9百円前後、為替はご案内の通り約12円円安になりました。1円円高になりますと、トヨタを始め日本の主要企業4百社だけでなんと2千億円の赤字が出てしまう。逆に1円円になると2千億円、大手に入ってくる。

12円円安になったということは単純計算で2兆数千億円が大手には入っています。問題はそこから先の2百20万社の中小企業にそのお金が内部留保に使われないで、しっかりと回るような仕組みを作っていくことが、私どもの役割なのです。そういう中でよく3本の矢ということで総理も説明をされていますが、大胆な金融緩和をしっかりと打っていく。日銀は今まで1%を目処などと言って物価上昇率を明確にしていなかった。これははっきり言って責任を取りたくないからです。日銀の総裁は3年間大過なく過ごすとそのあと7千万の天下りが待っている。だから自分の任期中は安定政策でリスクを取らない。これでは円高は止まらない。それが今日ずっとデフレが続いてきた要因にもなっております。そして財政運営も今回25年度予算は税収よりも少ない借金で賄おう



とメリハリをつけました。なぜなら補正予算で20兆円規模の経済対策を打った故に、このお金も今までの様に無駄な道路やダムは造りません。中央道の笹子トンネル、あのような事故は絶対無い様にしなければなりませんし、新しいものを造るのではなく今ある、そして子どもの命や高齢者の命をしっかり守る為の公共事業であれば良からうという事で、この政策を打っているわけでありませう。

何れにしても15か月連続予算という事で、日本経済、春先には株価も1万2千円、3千円と上がっていくよう



にこの政策を打っていきたいと思いますし、そういう意味では女性の皆さんが今まで以上に活躍をしていただく、例えば女性経営者が娘さんに会社を譲り渡したい。事業承継税制はこの4年間でたった6百件しか使った人がいませんでした。そして今回税制改正で承継者が親族でなくてもよい、5年間で連続8割雇用を維持しなければ事業承継が許されなかった、これを5年間の平均で8割という改正もいたしました。このようにして株式を譲渡する場合にも様々な税制改正をすることによって次の方にしっかりとバトンを渡す、そういう仕組みも作ったところがあります。

ただし皆さん、今尚女性性は、結婚して子供を産んだなら会社に戻れない、7割が仕事を辞めてしまっています。介護をしても、介護に付きつきりになってしまふ。そういう女性の持てるポテンシャルをしっかり引き出す政策をやることによって、今まで以上に経営者の皆さん、社員の皆さんが女性のパワーで東京の経済、日本の経済を引っ張って、ここにある2020年のオリンピックを東京に、日本に持ってこられるように、国会でしっかりとやっていきたいと思っております。

本年一年どうぞご健にて皆様のご活躍

を心から祈念申し上げまして、自分の選挙区が練馬だとかなんだとか一言も選挙のお願いは言わずにご挨拶を終わります。」

その後、猪瀬東京都知事、佐村内閣府男女共同参画局長の祝電披露のあと、オリンピックのスキー複合 荻原次晴氏、競泳 岩崎恭子氏のオリンピック招致挨拶があり、石原慎太郎様の音頭で乾杯、会食懇談、そして恒例の抽選会など和やかな雰囲気では進みました。

今年の新年懇親会では会の冒頭に国歌斉唱・女性の歌斉唱・女性会活動指針唱和を取り入れたこと、総合司会の楨徳子氏はじめ抽選会では鹿野 直子氏、畑 久美子氏の新入会員にお手伝い戴いたことが特筆されると思います。抽選会の景品を各テーブルにお届けするお手伝い等、全てにおいて垣根なく会員の方々が一丸となって運営を致しました。

また、懇親会終盤までご参加下さった石原慎太郎様を囲んだり、オリンピック、演奏の鍵盤男子との記念撮影は会員一同存外の嬉しさであったようで、多くの笑顔がこぼれておりました。

最後に会場で参加者全員が輪になり、鍵盤男子の伴奏で「故郷」を合唱し温かく和やかに会は終了いたしました。



平成24年度 会員総会

東商ビル国際会議場において、
東京商工会議所女性会
平成二十四年度会員総会が
開催されました。

司会の山口玲子副会長の進行により、吉川稻会長から「東日本大震災から早いもので1年3ヶ月が経ちましたが、まだまだ継続した支援が必要です。未だ先行き不透明な国内経済、原発・エネルギーの問題等、今私たちが抱えている様々な問題は、これまでの競争社会を見直さなければならぬことを教えてくれると思います。想いを正してまいりますと秩序ある循環で生かし合う

自然の姿の中にこそ、今、学ぶべきことがあると思っております。各人が自分の立ち位置を知り、絆を大切にしながら信頼関係を築き、『報恩・感謝・育成』を基盤にした秩序・礼儀を心得た品格ある組織を作り、共存共栄を図りながらこの大変な時代を共に乗り越えていくことではないでしょうか。私たち東京は全国の目標でもあります。それに応えていく役目もあると思います。現実をしっかりと見極めて今何をなすべきかを真剣に考え、改めて女性会の活動を通じてお互いに自己の向上に努め、この難局を皆さまで共に乗り越えて行き

たいと思っております。私も力不足ではございますが、この思いをもって精一杯残りの任期のお役目を果たしていく覚悟でございます。どうぞよろしくご協力の程お願い申し上げます」との挨拶がありました。

次に、東商女性会規則第17条により吉川会長が議長となり、議事録署名人に北川多美子会員、本間浩美会員を指名し、議事に入りました。

まず、議件1「平成23年度事業報告(案)」、議件2「平成23年度収支決算(案)」について事務局から説明があり、幹事2名を代表して須永明美監事より適正にして事実と相違ないことが報告されました。続いて、議件3「平成24年度事業計画(案)」について吉川会長から、議件4「平成24年度収支予算(案)」について事務局から説明がありました。議件1から4について議長が会場に諮ったところ、多数の拍手をもって承認されました。

次に、議件5「理事選任(案)」について、事務局の選考概略説明の後、真摯な質疑応答を経て、挙手による賛成多数により承認されました。

以上をもって総会を終了し、会場を移して例年通り東商ビル4階の特別会議室にて懇親会が行われました。高野秀夫東

第44回 全国商工会議所女性会連合会

北九州全国大会

〈全国各地から約2700人が集いました〉



では「環境未来都市 北九州」として生まれ変わりました。今「産業観光」に力を入れており、今回、北九州の魅力に多く触れていただくため地元経済界をあげて心づくしのおもてなしを準備しました。」と力の入った言葉がありました。その後、ご来賓の小川福岡県知事、北橋健治北九州市長、廣實郁郎経済産業省九州経済産業局長のお三方より祝辞を頂きました。

祝電の披露、ご来賓・役員紹介が行われた後、全国出席女性の紹介が行われ始めると、会場は溢れんばかりの女性会パワーで満たされ、女性の強い絆を象徴するような一幕もありました。

その後は今年第11回を迎える「女性起業家大賞」受賞者の発表と授与式、全国商工会議所女性会連合会表彰授与式が行われました。

最後に次回「ありがとう！ 明るい未来につなげる絆」をテーマに開催される第45回全国大会の開催地である、宮城県商工会議所女性会連合会へ全商女性会連合会旗が引き渡され閉会となりました。

記念講演会

演題：北九州発！グローバル会社の口

ポット会長奮闘記

講師：株式会社 安川電機 代表取締役会長 長利島康司氏（北九州商工会議所会頭）

懇親会

オープニングは北九州市小倉少年少女合唱団と富永裕輔氏との「3ラベーション」による素敵な演奏から。ジャズ演奏を聴きながらの歓談の時間には、豊富な北九州の秋の味覚を堪能させていただき、何といても、とら河豚のお刺身は感動的でした。

懇親会終了後も、希望者のみの参加による「北九州ナイト」で生バンド演奏によるダンスパーティーや日本三大夜景の「皿倉山夜景鑑賞」など全国大会の余韻を楽しむことができました。

エキスカージョン（10月6日）

「新日鐵株式会社 八幡製鐵所 工場見学と門司港レトロの旅」、「株式会社 安川電機 工場見学と門司港レトロの旅」、「シャボン玉せっつけん株式会社 工場見学と門司港レトロの旅」、「世界記憶遺産と門司港レトロの旅」、「門司港レトロ観光と小倉歴史探訪の旅」。

東商女性会会員は、歴史ある新日鐵（株）八幡製鐵所見学に多数参加しました。

福岡県北九州市小倉北区の西日本総合展示場新館において、会旗入場、国歌斉唱、商工会議所女性会の歌斉唱、「商工会議所女性会活動指針」唱和、物故者への黙祷、と荘厳に滞りなく進行了しました。主催者である吉川稲 全国商工会議所女性会連合会会長より挨拶の初めに、過日の九州北部豪雨、台風17号による被害などへのお見舞いの言葉があり「全商女性連は今年度も新たに5支部が加わり、410女性会、2万3千の会員を擁する女性経営者のネットワークになりました。これから、共生・調和の精神で、引き続き被災地の早期復興、地域・日本の再生を目指し幅広い活動を展開して参りたいと思います。ロンドン・オリンピック、パラリンピックでは日本選手団のメダルラッシュに私たちも勇気と感動を覚え、特に女性選手たちの活躍、チームや団体競技の活躍が目

立ち誇らしく思いました。この北九州全国大会を契機に、ぜひ日本招致を実現させ2020年、元気になった日本の姿を世界中に発信していきましょう」との挨拶がありました。次に、日本商工会議所専務理事 中村利雄氏がご挨拶をされ、岡村会頭からのメッセージを代読されました。その後、開催地である北九州商工会議所女性会、深町宏子会長が登壇され、「産業と環境で未来を創造する都市 北九州へようこそおいでくださいました。昨年度北九州商工会議所女性会は創立20周年を迎え、また来年は市政50周年を迎えるという記念すべき年に北九州全国大会を開催することができ、大変嬉しく思っております。」とご挨拶されました。また、北九州商工会議所、利島康司会頭からは「この北九州は歴史の途上では深刻な公害問題に直面しましたが見事に克服し、現在



白で統一した服装に深紅のネックチーフ、といういでたちの栃木の会員の皆様方による温かいもてなしに感動しながらの会場入りでした。

まず、主催者の関東商工会議所女性会連合会、小泉清子会長より「栃木県は歴史深い土地です。また宇都宮の餃子日本の町おこしを住民全体で盛り上げ、実力をもって定着させた商人魂には脱帽です。昨年の大会は東日本大震災により開催が見送られ、関係各位にとつての課題は今なお山積していることでしょう。どうぞこの

としたいものです。」とのご挨拶に続いて、福田富一栃木県知事から「宇都宮にこうして皆様にお出かけいただき感謝にたえません。これからも、広域的な産業発展を果たしてまいります。」と歓迎の言葉がありました。

さらに宮川正経済産業省関東経済産業

局長より「3月3日に開催した『日本の未来』応援会議へ小さな企業が日本を変える」(※枝野幸男経済産業大臣と岡村

正中小企業政策審議会会長 / 日本商工会議所会頭を共同議長)でも、商工会議所

女性会に期待する役割は大きいと感じました。」とお話があり、日本商工会議所、中村利雄専務理事の代理・佐藤健志総務部長が「新年度を復興元年として、日商は息長く強力に復興と再生を押し進める年としたいと考えています。組織の強さと、人と人との絆と協力によって充実した活動を展開したいと存じます。」と締めくくられました。

商工会議所女性会連合会会則の改正があり、役員任期も会議所に合わせ3年とされました。そして、吉川 稻新会長より「今までの先輩への御恩に報いていけるように、努力を惜しまぬことを誓って就任挨拶に代えさせていただきます。」との言葉がありました。

次の大会が行われる横須賀の会員が、来年に向けての元氣なアピールを行いました。

そして、安田純代千葉商工会議所女性会会長から「本日は皆さまとお顔を合わせ、環境3、教育2、環境教育2、継続テーマの箇所が2の計9か所の都県単位の報告ができ嬉しく思います。参考にさせていただきます、活動の励みとし、力強く前進していきたいと存じます。」と政策委員会報告がありました。

続いて、全国大会PRのために来場した北九州のアピールの後、関東商工会議所連合会、高野秀夫代表幹事より「震災から立ち直る日本を世界に大きく示し、開催に付帯する経済効果で更なる元氣を得るためにも、2020年のオリンピック招致を勝ち取らなくてはならないと各商工会議所の意識は一致しております。一層のご協力をお願い致します。」と特別アピールがあり大会は閉会となりました。

第27回 関東商工会議所女性会連合会総会

栃木県大会

宇都宮市文化会館に、

全国大会を控え駆けつけた

北九州女性会を含めた

1都9県73会議所

女性会より764名が

参集しました。

支えていただきました会長としては最後の挨拶となります。皆さま本場にありがとうございました。」とのご挨拶がありました

次に、早川慶治郎足利商工会議所会頭より「東日本大震災では栃木の被害は軽微とはいえ130人を超える死傷者を出し、様々な直接間接の被害を受けています。ぜひ女性会の皆様のご来訪を呼び水

次に、早川慶治郎足利商工会議所会頭より「東日本大震災では栃木の被害は軽微とはいえ130人を超える死傷者を出し、様々な直接間接の被害を受けています。ぜひ女性会の皆様のご来訪を呼び水

次に、早川慶治郎足利商工会議所会頭より「東日本大震災では栃木の被害は軽微とはいえ130人を超える死傷者を出し、様々な直接間接の被害を受けています。ぜひ女性会の皆様のご来訪を呼び水



東京・武蔵野・町田商工会議所女性会

共催事業

旧白洲邸武相荘・国際版画美術館

視察・交流会

町田商工会議所女性会を

幹事として、平成24年度

東京・武蔵野・町田

商工会議所女性会共催事業

旧白洲邸武相荘・

国際版画美術館 視察・

交流会が開催されました。

初夏とはいえ少々肌寒さを感じながらJR町田駅に集合した参加者は2台のバスに分乗し、それぞれ旧白洲邸武相荘と国際版画美術館へと向かいました。

旧白洲邸武相荘は戦後、吉田茂元首相に請われてGHQとの折衝にあたり、GHQに「従順ならざる唯一の日本人」と言わしめた白洲次郎氏と文学、骨董の世

界に深く関わった白洲正子氏ご夫妻が戦中から住み、終の棲家とした家です。時代の最先端を

かけているにも関わらず、古くからの日本人の心と誇りを保ち続け

たお二人の生き様そのままに、モダンであり、そして四季折々の風土とともに歩まれた様子を感じるこ

とができました。国際版画美術館では特別展「版画の冒険ミレ、ドガそしてムンクへ」が開

催中でした。19世紀後半のヨーロッパで、写真の登場や印刷技術の飛躍的な発展のために大きな岐路にたたされた版画が、ミレーやダガらの「画家にして版画家」の個

性的な試みによって、美術表現の道が切り開かれ、新しい時代に適合していく様子がわかりやすく展示されていました。

そして2台のバスが合流し、会場をホテルザ・エルシイ町田に移して懇親会が開催されました。

開会に先立って、増田千夏氏によるピアノ演奏があり、会場がより一層和みました。石井真理子 町田商工会議所会員交流委

員長の司会によって、三澤ミイ子 町田商工会議所女性会会長が登壇され「町田市は八王子市に次ぐ人口を有する市ですが、山や畑、田んぼも多く、

やすらぐ故郷です。どうぞ楽しい町田の夜をお楽しみください」との開会挨拶がありました。

続いて問野百合子 武蔵野商工会議所女性会会長による乾杯のご挨拶

で懇親会が始まりました。途中、料理長によるご挨拶を頂戴し、また、NHK首都圏ネットワークで放送されたという水

耕栽培の試作品のメロンを町田商工会議所女性会

から東京・武蔵野商工会議所女性会へ1個ずつ贈呈いただきました。見るからに美しくておいしいお料理に舌鼓を打ち、楽しくはずむ会話に時の経つのを忘れる一時でした。

最後に吉川稲 東京商工会議所女性会会長による「心からのおもてなしをありがとうございます。豊かな自然の中にある武相荘を訪れて感じました彼らの思いをしっかりと受け止めて、日本をよりよい国にしていきたいと思います。」との挨拶があり、名残を惜しみつ閉会となりました。



平成24年4月26日



研修委員会主催

スプリング セミナー

学士会館にて

スプリングセミナーが

開催され、今回は「笑い」を

テーマに各方面の専門家から

貴重なお話が聞けることもあり、

59名の方が参加されました。

最初の講師は、長年テレビ番組の制作に携わってきた原田忠幸さん。

「東京商工会議所女性会のセミナーにお招きいただき光栄です。大学で、教職課程も学びましたが、念願の女子高での実習がかなわず挫折。40年の歳月を経て、ここに実現できたことを重ねて感謝申し上げます。」と、参加者を笑わせた後、講演に入りました。

次にご登場いただいたのは岐阜聖徳学園教育学部教授の橋元慶男先生です。先生は「笑い」について、心理学的・生理学的に研究発表を続けておられ、対人関係、メンタルケアに役立つ「笑いヨガ」を提唱されています。

橋元先生によれば、「人間の最大の罪は、不機嫌である」だそうです。それは、周囲の人に不愉快な思いをさせ、歴史を見れば、果ては戦争まで引き起こすことになりかねない。笑わないのも、「生活習慣病」と言ってもよく、笑わない人には、「笑い癖」をつける訓練をしてあげるとよいそうです。

そして、今回のスプリングセミナーのトリを務めて下さいましたのは、三遊亭圓歌師匠です。笑いの第一線で半世紀以上活躍されていらっしゃる師匠は、自らを「落語界の異端児」と例えられ、元々落語界では黒紋付を着て高座を務める慣例を「お葬式じゃねえんだから」との理由で黒以外色の紋付きを着たり、タブーとされたメガネを掛けて高座に上がられたり等々のエピソードを伺いました。

テーマは「テレビと笑い」。原田さんのテレビ人生で一番長くかかわった「ニューステーション」や久米宏さんのお話から、ご自身がテレビの仕事につきたくて、3年留年し、アナウンサー試験や地方局も受けたお話、そして、「8時だよ全員集合」でのドリフターズの計算された演出や、「おれたちひょうきん族」でのタレントのアドリブを上手く引き出す演出など日本中を笑いの渦に巻き込んだ伝説の番組について解説いただきました。最後に「多チャンネル時代になっても笑いだけは必要ですね」と講演を締められました。

人を笑わせるには「笑いの間」が大切で、ちよこちよ拍手をもらっているだけではいい、ためておいてから笑いをとることや、日蓮宗の僧侶としても、笑いと説法の両面を大切にされていることなど、実にあつと言う間の45分でした。最後は、有名な「中沢家の人々」をご披露下さり、参加者全員をお腹が痛くなるほどに笑わせて頂きました。

大拍手のなか幕を閉じましたが、熱気にあふれた会場には沢山のこやかなお顔がありました。

その後、参加者の皆さんは昼食会場に移動、高田悦子委員のご息子の優氏と、そのお仲間によるサックス四重奏の調べを聴きながら、昼食をいただきました。





社会貢献委員会主催講演会

「私の社会貢献活動」

「人の為が偽にならないために」

活力料理研究家 バーバラ寺岡氏

6月19日、東京商工会議所

特別会議室Sに於いて

バーバラ寺岡氏による講演会が

行われました。当日は

強い風雨に見舞われたものの、

多くの来場者が足を運びました。

食の研究者として著名なバーバラ寺岡氏の経歴は波乱に富んでいらっしやいます。

「私のこれまでの人生を通じて一貫して心に留めているのが、人に尽くすにはまず自らがその責務に応えられる心身の健康を維持する事が大事だということ。人の為、人の為と言って行動する中にはどこかに欺く気持ちが入っているように感じています。にんべんに為と書いて偽となる

して30代で膠原病という難病を患ってしまいました。様々な疾患を抱えあらゆる治療を試みたものの、その効果は期待できるものではありませんでした。10代では、重度の肥満にも悩まされ18歳で吐血。十二指腸を摘出してからは鉄分の吸収が出来なくなり、薬での治療はますます困難となつてしまいました。

様々な治療を重ねながらも、かねてより食べ物で治らない病は薬でも治療は不可能と聞かされてきたことを思い起こしました。改めて、昔から言い伝えられていた先人の知恵や自然の法則などをとに素材のルーツを調べる事でその効能や特性を理解し、自分なりの研究を重ね、その結果健康な体を取り戻すことができたのです。

そして現在は、健康に問題を抱えている多くの人を食の面から救いたいという気持ちから、自分自身で効果を確認した健康法を広く伝えることに力を尽くしています。」

ご自身の辛い経験から社会貢献活動に至るまでのお話に加え、歴史にまつわる食の話や、斬新な切り口からの健康維持の秘訣などの実例を多数ご紹介頂きました。例えば、ソムリエのそもそもの役割は、毒殺が横行していた時代に王公貴族たちが

身を守る為においた毒見係であったというお話。携えている銀のグラスは毒による変色を見る為、黒いエプロンは万が一を常に意識しての装束、そして何よりも臭いを正確に習得することで毒を嗅ぎ分けて自身を守ったことからのいつの間にかその道を極めることに繋がったことなど、参加者は興味深く聞き入っていました。

さらに、女性にとって気になる余分な脂肪は、冷えている場所に溜まりやすいこと、ですから冷えている場所を温める事で脂肪が落ちやすくなる、というお話も頂きました。

一般的に認識されている情報も、実は別の見解があるという実例や、昔話にちなんだユニークで興味深いお話の数々に、会場からは絶え間なく笑い声や感嘆の声が漏れ、活気溢れる中で講演は終了となりました。





谷田氏は、1985年に株式会社タニタの代表取締役社長に就任し、世界初となる家庭用体脂肪計・

体組成計の成功により、当時赤字だった同社をヘルスメーター売り上げ世界No.1企業へと成長させた立役者です。

現在は、高齢者の積極活用を目的として設立されたタニタ総合研究所の所長として、新事業の模索などに取り組みられています。

最初に、阿部千恵子副会長より「2代目社長がどのように事業、経営哲学を継承されたのか、そしてどのように『タニタ食堂』が誕生されたのか大変興味深く楽しみにしております」とのご挨拶があり、講演

がはじまりました。

ビジネス事業委員会主催講演会

タニタの経営学

「父から子へいかにしてタニタ食堂は誕生したか」

株式会社タニタ総合研究所 代表取締役所長 谷田大輔

社員の健康管理を社員食堂で

実践し、一躍世間の注目を

集めた株式会社タニタの

前会長で、現社長の実父で

いらっしやいます

谷田大輔様をお招きし、

貴重なお話を伺いました。

が生き残ってきました。すなわち、飢餓に備えて体に余分な脂肪を蓄えることができる、要するに太りやすいため、体重管理が必要となります。

タニタでは機器の開発だけにとどまらず、人々の健康維持のため関連事業分野へと展開を図ってきました。『体重計ビジネス』から『体重ビジネス』へと事業のコンセプト自体を変えることで幅広い分野が視野に入ってきました。

タニタは、私が継いだ時には赤字で、最終的には工場を東京から秋田に移転しましたが、100人いた社員で秋田に移る希望者は一人もいませんでした。当時、社員の平均年齢は40歳でしたが、秋田に行った途端にほとんど新卒者で平均年齢は19歳。そして、一貫工場にしたので、人間が

減り労働条件が大幅に変わり、工場移転と同時に黒字になりました。そこで残された本社を、体重計ビジネスから体重ビジネスにコンセプトを変えることにしました。体重についての知識がなかったため、体重の知識を得るために、工場跡地にベストウエイトセンターを作って、体重指導を行いました。スポーツセンターでは、運動機

のみで食事の指導はほとんどない。タニタは、栄養指導教室、調理教室も行って、作っ

たものを食べてもらうというユニークな設備でした。しかし、その後、町のプールでも栄養士を雇って指導するようになり、ウエイトセンターの役割はなくなりまし

た。この時に、スタッフを有効に活用したいと、社員の食事を作ってもらおうと考えました。また将来、何かのビジネスで使えるだろうと、毎日違うものを作ってレシピを増やしてほしいと頼みました。

ところで、減量にあたっての注意ですが、一食ごとにタンパク質をしっかり摂ってほしい、内臓はタンパク質できているので、タンパク質をとらないと内臓が壊れてしまいます。あとは吸収がよいように繊維質をとり、時間をかけてよくかんで食べるのが大事だと思います。」

その後、タニタを例にした経営のお話では既成概念からの脱却、下請企業からの脱皮、オンリーワンの経営、オンリーワンの開発を目指されたこと。そして事業継承では必ずしもご長男を選んでの継承ではなかったこと、自分ないものをもっている方を顧問として迎える、議論の時にはすべての意見を白板に書いてポイントを探る等々、どのようにしてご自分なりの経営手法を確立されたのかを詳しくお話いただきました。

平成24年9月11日



交流委員会主催

鎌倉・三浦半島 バス視察会

「秋の古都鎌倉と城ヶ島・
三崎港海鮮堪能ツアー」と
題した視察会が開催され、
会員同士交流を深め
楽しいひと時を過ごしました。

9月に入りましたにもかかわらずまだ暑さが続いております中、バス視察会が開催されました。当日はお天気にも恵まれ、朝8時15分に東商ビル前に集合し鎌倉へと出発致しました。最初に到着したのは「白萩の花」で有名な宝戒寺です。宝戒寺は天台宗のお寺で、北条高時の慰霊のため、その屋敷跡に後醍醐天皇によって建武2年に創建されたといわれています。

す。寺域は北条義時が小町邸を造って以来、北条執権の屋敷

があった場所と伝えられています。残暑の厳しい日でしたが、あちらこちらに

咲いている萩の花が秋の気配を感じさせてくれており、この季節ならではの素敵な景観を楽しむことができました。

次に訪れた長谷寺は、観音山の裾野に広がる下境内とその中腹に切り開かれた境内と二つに分かれており、また入山口には妙智池と放生池が配され、周囲を散策でき



る回遊式庭園となっています。素晴らしい景観の中を、ミストを心地よく浴びながらの散策となりました。

続いて向かったのは三浦半島ですが、マグロの水揚げが盛んな三崎港の周辺にはマグロづくしの料理店が数多く並んでいます。今回、私たちが昼食会場とさせて頂いた「割烹旅館・立花」はその名の通り宿泊も出来るお店で、落ち着いた雰囲気の中和室で心待ちにしていたマグロ料理を頂きました。立花では「マグロ一匹コース」が看板商品で、通常ではなかなか食する機

会がない様々な部位を食べ比べることができ、美味しく堪能させていただきました。お食事のあとは半潜水式の水中観光船「にじろさかな号」に乗船し、三崎の海を水中散歩、その後、三浦フィッシャリーナ・ウォーフ「うらり」にて名物であるマグロの関連のお土産品を購入し、東京へと戻りました。

次回も多くの会員の皆様にご参加いただき交流を深めてまいりたいと思っております。



平成24年5月24日

東京商工会議所女性会 食の研究会

第2回勉強会

「薬食同源のすすめ」

講師：薬学博士 田村哲彦

食べものを現代医学と漢方の両面から研究している第一人者の田村哲彦先生をお招きし、「食の摂り方・活かし方」についてお話をいただきました。

田村先生は「おもしろいテレビ」等、多くのテレビやラジオ番組のご出演の中で食べ物と健康のかかわりをわかりやすく解説されています。特に漢方・中医学による視点と現代薬理学の見地から食べものを研究し、病気の治療や予防に積極的に取り入れる試みを重ねていらっしゃる。通常使われている「医食同源」ではなく、「薬食同源」という本来中国にて使われていたことばで「食品と薬は口に入ると同じことで何らかの作用を発揮し、同義である」と食の重要性を説かれ、私たちも生涯現役を貫くため熱心に聞き入りました。

また、「薬膳」を「食治」の一面として

とらえ、普段食べている料理法で美味しくかつ身体の調整を図る食事として毎日摂取できる研究をされていらっしゃる、講演の中でも様々な食べものにおける効果や効果的な食し方について説明がありました。

現代社会では生活習慣病がますます増えており、「未病」の段階にある人（予備軍）はその何倍もいるといわれています。何時までもストレスを感じることなく仕事に邁進できることが理想ですが、そのためにも、日常何気なく食べている食物をきちんと見直し、薬に頼ることなく健全な食生活を心がける重要性を感じました。



平成24年10月9日

東京商工会議所女性会 食の研究会

第3回勉強会

「フード・インタ」

上映会

東商ビル特別会議室にて、2008年のアメリカ作品で、アメリカの食品産業の現状に警鐘を鳴らし、第82回アカデミー賞ドキュメンタリー長編賞にノミネートされた話題を呼んだ作品の上映会が開催されました。日常当たり前のように口にして

いる食べ物や飲み物のように生産され、どのように消費者に届けられるのか、その過程を追う中で、アメリカの食品産業の実態が浮き彫りにされていました。

アメリカの広大な農地での農業スタイルは、大量消費と大量生産の時代の中で一部の巨大企業が市場を牛耳るゆがんだ業界構造をもたらしていること、また、遺伝子組み換え食品や加工食品などの食事情の現実に言葉が失いました。

はたして遺伝子組み換えや、狂牛病に

改めて食の安全性に関心を持たざるを得ない、という危機感すら覚えました。

日本では食料自給率は40%（カロリーベース）といわれています。地産地消で美味しい旬の食材をいただき、食材を海外から調達しないで自国で賄えることを目指したいと願いますし、まずはどんなに小さくても家庭菜園に取り組むのも一つの方法ではないかと思いました。

一般的に「すぐにキレル人が多くなった」といわれて久しくなりますが、これも毎日の食事が関係しているかと思えます。毎日忙しいからと、簡単に食事をとる生活を見直す良い契機ともなりました。何より低廉のファーストフード依存は危険と肝に銘じ、女性会で食に注目している意義を改めて感じた上映会でした。

東京商工会議所女性会 食の研究会

第4回勉強会

「日本の伝統調味料 味噌・醤油について〜味噌仕込み体験〜」

講師：株式会社ヤマキ 森田和彦

東商ビル特別会議室Sにて、女性会「食の研究会」第4回勉強会が開催されました。

今回は、講師として、株式会社ヤマキから、企画・マネージャーの森田和彦氏をお招きし、「日本の伝統調味料 味噌・醤油について」と題してご講演を頂きました。その後、参加者全員が味噌作り（仕込み）に挑戦し、mY味噌を熟成させるための秘策を伝授されました。

最初に吉川会長より「先祖から長きに亘り伝えられてきた日本の食文化の中にこそ、健全な思考と健康の源泉を見出すことができます。子供達の未来を考え、次の世代にどのようなものを残して行けるのかを考えつつ、また、私達が心身共に健全であり続けるためにも、今日は、真摯な気持ちでお味噌を作らせて頂きたい

と思います。」とご挨拶があり、まずは講演を伺いました。

【森田講師の講演要旨】

「味噌作りとは、子育てと同様であります。仕込みの日を明記し、半年間位の間、しっかりと面倒を見て頂きたいと思います。かつて、日本の家々では、小正月の頃、まだ畑に霜が降りていない頃に、親戚一同が集まり、様々な情報交換をしつつ、一年分の味噌、醤油を麹屋さんに手伝ってもらい仕込んだものでした。その味噌を蔵に沢山寝かせて置いたのですが、火災の際、火を消すために、また延焼しないように、味噌を投げて防いだという逸話も残っています。

日本の代表的な伝統調味料である味噌は、平安時代頃には、貴族の食卓で使用されていきました。庶民にとっては、神社に奉納

されていた塩のお下がりのみが唯一の調味料であったようですが、室町時代に入り、味噌が庶民に食されるようになったとされています。

こうし菌の優れた効用は、味噌や醤油に代表されるように、日本の伝統的な発酵食品、調味料として生き続け、私達の食を芳醇なものとしてきたところにあります。また、食文化としての歴史的地位を保ち、日本人に愛され続けて来ました。

日本に原産する木で作られた樽の中で熟成された味噌には、その樽ならではの麹菌が生き続けているのです。また、日本各地に存在するそれぞれの蔵では、その蔵特有の麹菌が大切に育てられ、職人の力により守り続けられ、伝承されているのです。

現代では、発酵食品までもが、人間の科学技術によって作られています。しかし、日本に産する材料のみを使い、職人の力により時間をかけて作られ続けている日本の伝統食品がある、という事を皆さんに知って頂きたいのです。さらに、それを後ろで支えている伝統農業にもご理解を頂きましたと思います。私自身、日本の食品の伝統を継承していくことを使命と考えております。」

味噌仕込み体験

セット内容（仕上がり量約3.5kg、塩分：約11%）

- ① 煮大豆：国産特別栽培大豆を神泉水で軟らかく煮たもの。1kg×2袋
- ② 麹（白米・玄米）：国産特別栽培米を白米・玄米麹にしたもの。1kg×1袋
- ③ 塩：400g×1袋
- ④ ポリ袋・輪ゴム

1 原材料の仕込み

麹・塩を大きめのポリ袋に入れる。袋に空気を入れ風船のように膨らませて振り混ぜる。大豆を入れ、麹・塩・大豆が良く混ざるように振る。良く混ぜたら、仕込み用に種水を100〜150cc入れる。味噌の硬さを調整する。

2 つぶしの作業

手や足を使い、大豆の粒がほとんどつぶれるまで、約30分ほどつぶし続ける。

以上のプロセス終了後、自宅での手入れ方法と注意点をお聞きし、体験的勉強会は幕を閉じました。あとは、持ち帰ったmY味噌の熟成のための良き環境作りが課題となります。来年9月頃には、mY味噌を持ち寄っての同窓会が開かれることを期待しての散会となりました。



東日本大震災復興支援 チャリティーコンサート

被災地の子どもたちにも私たちができること

東京商工会議所女性会主催、
「東日本大震災復興支援
チャリティーコンサート」が、
サントリーホール「ブルーローズ」
に於いて開催されました。

会場は満席となり、オープンステージには一台のグランドピアノが置かれ、開演直前の熱気と緊張感が漂う中、開会のアナウンスがなされると、客席の期待は一気に

高まりました。

最初に、吉川稻会長より主催者としての挨拶があり、本日のチャリティーコンサートを開催するにあたりご協力を頂いた全ての方々に深い謝意が表された後、「昨年3月11日に起きた東日本大震災を振り返り、早1年8ヶ月が過ぎ去り、その悲惨さの記憶は薄れつつあります。然し、被災地での復興はまだまだこれからであり、親を亡くされた子供さん達も十分な生活

支援を受けているわけでは無く、今後も継続した支援が必要でありましょう」と話されました。

続いてLEGENDの紹介がなされ、ステージは一転、7人のアーティスト達による素敵な音楽芸術の世界へと移りました。

今回出演のLEGEND(レジェンド)は各種オペラ、コンサート等の演奏活動を通して広く好評を得ており、東北被災地においてもコンサートを実施し、また「平和の祈りを人々に歌で送り届けること」をライフワークとする中で、広島や長崎を始めとする国内外の平和のイベントに参加し

続けているオペラユニットです。メンバー全員が国立音楽大学の同窓生であり、このコンサートではテノール歌手3名、バリトン歌手2名のLEGENDのメンバーに加え、ピアニスト2名が参加し総勢7人の男性演奏家で編成されていました。

リーダー吉田知明氏から「音楽を奏でる事のできる幸福を大切に思います。このコンサートから被災地に思いを馳せましょう。本日は有難うございました。」との心こもったご挨拶があり、深い感動のうちにはチャリティーコンサートは閉会となりました。

コンサートは、休憩を挟んでの2部構成。イタリアのカンツォーネから始まり、オペラのアリア、日本歌曲、メキシコ民謡等、プログラムも多種多様に準備され、ピアノ連弾演奏(曲目：仮面舞踏会など)の華麗さも加わり、聴衆を魅了してとどまるどころを知りません。加えて、リーダー氏の巧みな話術と、メンバー各氏の多才なパフォーマンス、聴衆を巻き込んでの演出にいつしか会場は時の経つのも忘れ、ブラボーと喝采の渦に包まれました。楽しい時間は瞬く間に過ぎ去り、アンコールの拍手も鳴り止まぬうちに、閉会の時刻となりました。

チャリティーコンサート 募金結果報告

金額：1,892,719円

チャリティーコンサートでの収益金 1,829,294円に加え、会場内に設置いたしました募金箱への募金、また各女性会事業で会員の皆様からお預かりした募金の合計となります。ご協力、ありがとうございました。

寄贈先

- ①とどろき学習室
- ②岩手県山田町
「山田町サーモンプラザ」
- ③とめ中高生自習スペース
「SUKOYAKA」
- ④福島原発被害からの
自主避難母子の会「from福島」



COVER PHOTO

撮影者 原和仁

1968年神奈川県生まれ。外資系企業で仕事をする傍ら、ライフワークとして見ている人に気持ちが伝わる写真を心がけてシャッターを切り続けている。近年は、写真を通して生きる力を育む活動にも参画し、写真の奥深さや人に与える効果を学んでいる。

<復原された東京駅>

1914年の誕生から、まもなく100年を迎える東京駅丸の内駅舎の復原が、2012年10月に完成いたしました。失われた部分を取り戻し、積み重ねた歴史を未来へ残す。「復原」という言葉にはそんな想いが込められているそうです。刻み込まれた歴史に新たな人の行き来を願って撮影。



新年懇親会・スナップ写真



受付開始



新入会員の皆様



オリンピック誘致の成功も願って乾杯!

行事 東商女性会今後の予定 平成 25 年

開催月日

9月5日(木)・6日(金)

内容

第45回全国商工会議所女性会
連合会 宮城全国大会

場所

ゼビオアリーナ (宮城県)

募集

○あなたも記者に!

あなたの東商女性会イベントでの思い出を、冊子やホームページの中に残しませんか?『東商Lady』と東商女性会ホームページでは、会員皆様のご投稿をお待ちしております。

- ・記事は、「です・ます調」で統一して下さいますようお願い致します。
 - ・写真は5枚程度を各自で選択のうえご提出ください。(記事だけでもOKです。)
 - ・記事・写真の提出締切は、イベント開催日から7日後までです。
 - ・『東商Lady』のバックナンバーは、ホームページよりご覧いただけます。
- 女性会ホームページ: <http://joseikai.tokyo-cci.or.jp/>

○表紙写真募集中!

『東商Lady』の表紙を随時募集中です。

- ・原則として、デジタルデータでやり取りできる事を前提とします。
- ・ある程度解像度の高いものが要求されます。(画素数が10.0メガ以上で最高画質)

応募とお問い合わせは、women@tokyo-cci.or.jp 宛お願い致します。



会員募集

経営者を取り巻く環境が日々変化する現代。
こんな時代だからこそ、
女性同士の絆づくりをしませんか。

女性会とは?

女性経営者の向上と社会福祉の増進を目的に活動している組織です。全国410商工会議所に設置され、約23,000の方が加入されています。東京商工会議所はその中でも最も長い歴史を持ち、約360名の方が加入されています。

加入資格は?

東京商工会議所の会員事業所の女性経営者、役員の方。法人・個人は問いません。

入会方法は?

申込書に必要事項をご記入いただけます。申込書は事務局までご連絡ください。

年会費について

女性会年会費として10,000円をご負担いただきます。なお、初年度は加入月によって、ご負担金額が以下の通りとなります。

- 4～9月加入: 10,000円
- 10～12月加入: 5,000円
- 1～2月加入: 2,500円
- 3月加入: 当年年会費はいただきません。



東京商工会議所女性会事務局
〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-2-2
TEL:03-3283-7577 FAX:03-3211-8278

INDEX

- 02 巻頭対談
- 08 新年懇親会
- 12 24年度総会
- 13 北九州全国大会
- 14 関商女性連・栃木県大会
- 15 視察会・交流会
- 16 スプリングセミナー
- 17 社会貢献委員会主催講演会
- 18 ビジネス事業委員会
主催講演会
- 19 交流委員会主催視察会
- 20 食の研究会
- 22 チャリティーコンサート
- 23 今後の予定 その他

東商Lady

2013年6月20日 / 第19号

発行所 東京商工会議所
会員交流センター

発行人 東京商工会議所女性会
会長 吉川 稻

編集 東京商工会議所女性会



商工会議所女性会